

令和3年度 狭野小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校の経営ビジョン： 子どもたちが未来を生き抜くために必要な力「知・徳・体」をバランスよく身に付けさせる教育活動を展開し見届けるとともに、家庭・地域と協働して郷土を愛する心を育てる学校づくりを目指す。

評価基準 4～期待以上（90%以上） 3～ほぼ期待通り（70～90%） 2～やや期待を下回る（50～70%） 1～改善を要する（50%以下）

|               | 評価項目                         | 評価指標  | 具体的な数値目標   | 方策・手立てについての自己評価  | 評価 |   | 学校関係者評価コメント   |
|---------------|------------------------------|---|--|--|----|---|---|
|               |                              |   |  |  | 記  | 執 |   |
|               | 1 少人数を生かした個別指導の充実            | ○ 少人数を生かした個別指導を充実させ、「分かった」「できた」を実感できる学習指導に努める。            | ○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、授業が「分かった」「できた」と答える児童を90%以上にする。      | ○ 単元テスト復習、Web 学習問題、校内漢字検定を活用した基礎・基本の定着や、個別指導の充実を図った。学校評価アンケートの児童調査で、授業が「分かる」と答えた児童が91%、保護者調査で「分かりやすい授業」と答えた保護者が95%となった。  | 3  | 3 | ○ 少人数ならではの授業が行われており、個別指導がそれぞれの理解度に応じているのが窺える。<br>○ アンケート児童調査結果のように、少人数ならではの目の行き届いた指導ができている。児童と先生との関係もとても良いと思う。<br>○ アンケートで「分かりやすい授業」と答える保護者が100%になるような授業に取り組んでほしい。<br>○ 目標をもって取り組むことは、意欲にもつながる。読書も楽しみながら無理のない範囲で個人目標を設定し、それから得られる喜びを味わってほしい。<br>○ 学年に応じた選書指導により、高い読書習慣を目指しているのはよい取組である。 |
|               | 2 読書習慣の育成                    | ○ 読書個人目標を設定することで読書習慣を育成し、発達段階に応じた読書をさせることによって、読書の質を向上させる。 | ○ 児童の読書目標達成90%以上を目指す。                                      | ○ 1学期の読書個人目標を達成した児童は40%(14名)であった。本を借りる習慣が定着しており、1月現在で1人平均110冊の本を借りている。個に応じた読書目標の設定と学年に応じた選書指導でより高い読書習慣を目指したい。また、本年度もビブリオバトルを年2回実施し、プレゼンテーション能力の向上を図ることができた。      | 2  |   |   |
|               | 3 指導力の向上                     | ○ 主題研究を通して全教員がICTを活用した研究授業を行い、指導力の向上を図る。                  | ○ 全員研究授業を行う。   | ○ 校内研究授業及び定期学校訪問において、全員が研究授業を行ったことで、ICTを効果的に活用した指導について研修を深めることができた。  | 4  |   |   |
| 豊かな心と社会性の育成   | 1 基本的な行動様式の徹底                | ○ 日々の生活における基本的な行動様式が当たり前できるように指導を徹底する。                    | ○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、項目「きまりを守る」で「よくできている」と答える児童100%を目指す。 | ○ 「さのっこの一日」、「高原の子幸せになる5つの法則」をもとに、全職員での具体的な指導を行った。学校評価アンケートの児童調査項目「きまりを守る」で「とてもよくできている・よくできている」と答えた児童が、100%であった。  | 4  | 3 | ○ 児童は、外部の方に対する挨拶の元気がよく、素直な心があらわれている。<br>○ 全職員でいじめの捉え方について指導し、いじめ、不登校の未然防止に継続して取り組んでほしい。<br>○ 朝チョボラでは、1年生も自主的に参加しており素晴らしいと思った。<br>○ 朝チョボラは、良い人間関係(育成)にもつながるので、進んで参加するよう継続指導をしてほしい。<br>○ 今、世界でSDGsの取組が広がっている。学校全体で身近な事から学習していくとよいと思う。   |
|               | 2 自己指導能力の育成                  | ○ 生徒指導の三機能を意識した学級経営及び授業を行うことで、児童に自己肯定感をもたせる。              | ○ いじめ・不登校解消率100%を目指す。                                      | ○ 毎月のスマイルアンケートの実施と、個人面談、スマイル委員会で、児童の状況把握と児童理解を深め、対応を共有できた。いじめの報告数は1。(現在は解消)不登校は0。今後も、全職員でいじめ・不登校の未然防止に継続して取り組んでいく。   | 3  |   |   |
|               | 3 主体的に考え行動できる児童の育成           | ○ ボランティア活動の活性化や行事・体験活動の充実を図り、社会性を育成する。                    | ○ 「何事にもすすんで参加している」と答える児童90%以上を目指す。                         | ○ 朝チョボラ、学校行事、体験活動、学級活動、委員会等で、児童が主体的に行動する場面を多く設定したことで、学校評価アンケートの児童調査結果で、97%の児童が、行事や体験活動に「すすんで参加する」と答えた。   | 3  |   |   |
| 体力の向上と健康安全の推進 | 1 体力の向上                      | ○ 体力向上プランに基づいた実践及び個に応じた指導により、体力アップを目指す。                   | ○ 体力テストのDE段階10%以下を目指す。                                     | ○ 体力テストのDE段階が全児童の22.8%であった。体育の時間において、サーキットトレーニングで雲梯や登り棒を活用したトレーニングや準備運動で上半身の柔軟性と筋力を高める運動に取り組んだ。体力向上プランを基に、体育の時間や昼休み、掃除等での体力アップに向けて具体的な取組を今後も継続的に行っていく。           | 2  | 3 | ○ 体力の向上に関しては、学校の取組だけでなく、休日の過ごし方等、家庭の協力も必要だと感じた。<br>○ 体育の時間や昼休みに皆でドッチボール、縄跳び等を行うことで、体力向上に繋がると思う。<br>○ 学習発表の場で、なわとびの実演があり個々に頑張っている姿がよかった。<br>○ 家庭や学校での感染予防の継続指導をお願いしたい。<br>○ 食べることは生きる基本であり、体はもちろん、心にも知にもつながることを児童も思えるようになってほしい。<br>○ 給食においては、完食100%を目指してほしい。                             |
|               | 2 児童の健康増進                    | ○ 児童自ら、感染症予防に対して関心をもち実践できるよう、その状況に合った保健指導を行う。             | ○ 感染症予防を積極的に実践する児童100%を目指す。                                | ○ 家庭での健康観察カード記入をお願いし、毎日の健康管理の徹底に努めた。<br>○ 学級活動や全校集会での全体指導等で感染予防の指導を行った。<br>○ 担任と養護教諭による日常指導において、3密禁止、手洗い、消毒の習慣化など感染症予防の意識を高くもたせることができた。                          | 3  |   |   |
|               | 3 食育の充実                      | ○ 給食指導の充実と弁当の日の完全実施により、食育の充実を図る。                          | ○ 給食で出されたものを完食する児童90%以上を目指す。                               | ○ 給食感謝集会、栄養教諭による巡回指導、給食主任による全校集会での話や掲示物作成等、食への関心を高める取組を行った。学校評価アンケートの児童調査結果で「完食する」と答えた児童が80%であった。<br>○ 年2回の弁当の日(9月と3月の遠足)を実施した。給食主任によるレシピ紹介や指導で、関心を高めることができた。    | 2  |   |   |
| 地域に根ざした教育の推進  | 1 地域への関心を高め理解を深める地域人材・文化財の活用 | ○ 地域人材・文化財の活用等を通して、児童が地域への関心を高めるとともに地域に対する理解を深める。         | ○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「高原や狭野ことをよく知っている」児童80%以上を目指す。       | ○ 学校の教育活動や行事(棒踊り・田植え体験・まち探検・高原分遣所見学)等で、地域人材や施設を活用した。学校評価アンケートの児童調査で、「高原のことをよく知っている」と答えた児童が83%であった。   | 3  | 3 | ○ 田植え体験等は、小学校時代しか体験する機会がないので良い体験だと感じた。<br>○ 地域行事は、コロナの影響で実施することが難しくなってきたが、棒踊りや田植え体験等は、親が伝えられない事を、活動を通して体験できるのでとてもよいと思う。<br>○ 狭野地区には、地域に根ざしたたくさんの行事があり、季節に応じた歴史ある活動が多々ある。今後もウィズコロナで対応しながら継続して参加してほしい。<br>○ コロナが早く終息して、地域行事に積極的に参加できるようになるとよい。<br>○ 高原に生まれ育ったことを誇りに思えるような児童育成を望みます。       |
|               | 2 ふるさとへの誇りや愛着の育成             | ○ 地域行事への積極的な参加を促し、ふるさとへの誇りや愛着を育む。                         | ○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「地域の行事に2回以上参加した」と答える児童80%以上を目指す。    | ○ 地域行事(敬老会・秋祭り・発祥地祭り・地区運動会等)が新型コロナウイルス感染拡大防止の措置として中止となった。狭野神楽への練習を含めた参加児童は、15名であった。  |    |   |   |
|               | 3 ふるさと教育の充実                  | ○ 高原町「ふるさと教育の手引き」「ふるさと学習テキスト」等を活用し、ふるさと教育の充実を図る。          | ○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「ふるさと高原を好き」と答える児童100%を目指す。          | ○ 町一貫教育の交流学習で予定されていた高原町内の施設等の見学が全て中止となったが、生活科でのまち探検、社会科での高原分遣所見学等、高原の自然や施設等を学ぶことができた。学校評価アンケートの児童調査結果で、ふるさと高原を「好き」と答えた児童が97%であった。今後も、テキストの活用とともに地域人材や資源の活用を継続する。 | 3  |   |   |